

## 令和6年度第1回中央区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

日 時：令和6年7月5日（金曜日）  
午前10時00分～午前11時12分  
場 所：中央保健福祉センターボランティア活動室  
出席者：委 員 22名（欠席6名）  
事務局 10名  
傍聴人 0名

### 【1】次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 中央区長あいさつ
- 4 新委員紹介
- 5 議題  
(1) コロナ収束後の地域活動において新規・拡充した取組みについて  
(2) 生活支援コーディネーターによる、地域の交流の場・通いの場に対する支援について  
(3) コミュニティソーシャルワーカーによる、地域の困りごとに対する支援について
- 6 その他
- 7 閉 会

### 【2】議事要旨及び発言要旨

#### <開会>

- ・委員28名のうち、22名の出席を確認して開会した。
- ・委員長あいさつ及び中央区長あいさつ後、新委員の紹介を行った。
- ・事務局から会議の公開について説明があった。

#### <議題（1）コロナ収束後の地域活動において新規・拡充した取組みについて>

中央区高齢障害支援課矢野主査から、資料1が重点取組項目以外の項目について、令和6年度の予定が記載されている完成版であり、また、議題について一部変更した旨の補足説明があった。

その後、コロナ収束後の地域活動について新規・拡充した取組みをした地区部会のうち3つの地区部会の委員から報告があった。

#### （ちば中央地区部会：高橋委員）

東本町自治会館で、昨年6月から、いきいきサロン「東本町茶話会」をスタートし、月1回程度、午後2時～午後4時の2時間程度で、参加者は10名程度。脳トレや体力検査を随時行っており、脳トレは参加者が輪になり、30数えたら右回り、40数えたら左回り、50数えたら一步下がるといったようなことをみんなで楽しくやっている。

また、今年1月から、亀井町会館にて、こどもカフェlea lea（レアレア）をスタート。lea leaはハワイ語で、「楽しく好きなように過ごしましょう」という思いが込められている。主任児童委員が中心となり、実行委員会で実施。毎月第3火曜日に実施しており、7

月・8月は葛城公民館に場所を移動し、7月は夏休みの自由研究の手伝いを、8月はボッチャを体験しながら、夏休みの宿題の手伝いなどをする予定で、同じ地域にあるてらこやちばの大学生にもサポートしてもらっている。

(東千葉地区部会：村井委員)

昨年の10月・12月と今年の5月の3回、千葉大学の学生たちが東千葉の地域に3日間ずつ来て、いろいろな活動を一緒にやったり、地域を回ったりしながら、どのような地域なのかを把握するとともに、その地域に対して自分たちで考えた支援や提案をまとめて発表するというプログラム。看護師や保健師などを目指す教育課程の実習になっており、参加した学生は社会に出てから地域の住民と触れ合う仕事をするが、なかなか地域住民との接点ができづらいので、実習の一環として地域住民と直接対話・会話し、活動を見ながら、自分たちが将来的に地域に対してどんな支援をすることができるか考えたいという実習になっている。1日目は行政からは地域包括ケア推進課とあんしんケアセンター弁天が、地域住民からは東千葉 和・輪・環の会が活動を紹介し、老後の暮らし方に抱いている率直な気持ちや大学、行政の連携・サポートにこんなことを期待しているということを互いに話し合った。2日目の午前には元気カフェ（健康体操）、ふれあいマルシェに学生が参加して、どうしてこのような活動をしているのか等、買い物に来ている方やスタッフに話を聞いたり、一緒に体操をしたりしながら、懇談会を開催。3日目は学生2人と住民2・3人で5つのグループを作って、それぞれの個々の経験や活動の中で感じていること、今思っていることなどについて学生に語った。午後には、地域包括ケア推進課とあんしんケアセンター弁天の職員も参加したところで、学生たちが実習で学んだことや地域づくりの発展に向けた発表をしてもらった。1回あたり学生が12～13人来るが、「東千葉の発展に向けて」という資料を作成してもらい、自分たちが感じた東千葉の強みや課題、それに対してどんなことができそうかという提案になっている。学生の皆さんは真摯で、住民も学生と話すことで普段の活動のときに話さないような不安なことも切々と訴えたり、なぜ活動をしているのか、こんな思いでこなしてきたというような話を、目をキラキラさせながら話していた。この取組みはあと2年続く。その後、3月に「これからを考えてみよう～コミュニケーション豊かなまちを目指して」という「東千葉住民のつどい」を開催し、学生が見た東千葉の強みと課題、コミュニケーションの大切さ、最初に入居した第1世代の方（70代以上）3人と若い世代（40・50代）3人がそれぞれこの地域に住んでみての感想と期待を語り、参加者それぞれが自分の住むまちについて考えるきっかけとなった。

(西千葉地区部会：岩本委員)

令和5年度は初めての活動として地域の居場所となる、ふれあい・いきいきサロン活動を開始。地域の皆さんの話し合う場、語り合う場、学び合う場として交流・仲間づくりの場を目指している。

令和6年度は地区部会がいきいきサロンを年2回開催し、会食形式でのふれあい食事サービスも年2回再開する予定。

(武井委員長)

ほかに情報提供をしたい地区部会の方がおりましたら、ご発言をお願いします。

(中央東地区部会：金井委員)

令和6年度から認知症カフェ「お茶の間椿」を立ち上げた。令和5年度から準備を重ね、生活支援コーディネーターにも相談。毎月第3火曜日午後から開催しており、有志のサー

クルが主催。1回目は5月1日に開催し、21名が参加。民生委員や地区部会の役員、生活支援コーディネーターも参加した。この地区は認知症の関係で困っている家族が多くおり、高齢障害支援課、民生委員、あんしんケアセンターとも問題を共有していたところ、このように認知症カフェが立ち上がったのは大きな財産であり、これからも見守り、うまく活用して、認知症家族の介護の軽減、高齢者の居場所づくりにつなげていければよいと思っている。

(武井委員長)

何かご質問やご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。

(土屋委員)

西千葉地区部会の取組項目 4 災害時に支援を必要とする人の避難支援のところに、民生委員が中心となって民生委員が把握している情報をもとに、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成しているという記載があるが、守秘義務の関係から問題はないのか。

(栗田委員)

(中央区民児協会長の立場で) 避難行動要支援者名簿の取扱いについては、これまでいろいろ議論を重ねてきているが、基本的には名簿に掲載されている方からの同意を得るということであれば問題がないという認識でいる。

(武井委員長)

事務局も同じ解釈でよいか。

(事務局)

はい。それで大丈夫です。

(武井委員長)

他に何かありますか。ないようでしたら、令和5年度の地域活動の取組状況については、資料1の内容で了承ということで、よろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(武井委員長)

令和5年度の地域活動の取組状況については、資料1の内容でご了承いただいたものいたします。

<議題(2)生活支援コーディネーターによる、地域の交流の場・通いの場に対する支援について>

生活支援コーディネーター中央区担当の坂本委員から、資料2を使用しながら、事例の紹介があった。

(武井委員長)

何かご質問やご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。

(各委員)

質問等なし。

(武井委員長)

ご質問等がなければ、議題(2)の説明は以上となります。

<議題（3）コミュニティソーシャルワーカーによる、地域の困りごとに対する支援について>

社会福祉協議会中央区事務所でコミュニティソーシャルワーカーをしている鈴木副所長から、資料3及び参考資料を使用するほか、口頭で以下のとおり事例等の紹介があった。

（鈴木副所長）

議題（2）で紹介のあった生活支援コーディネーターとコミュニティソーシャルワーカーは内容が重複する部分もあるが、1つ大きく違う点として生活支援コーディネーターは介護保険法に基づいて設置されているのに対し、コミュニティソーシャルワーカーは高齢者に限らず、様々な年齢層の方を対象としており、地域で活動するいろいろなグループや町内自治会、地区部会の方々とも連携して活動している。

地域や家庭の中での困りごとについて、適切な関係機関を紹介したり、一緒に良い方法を探す手伝いをしたりしている。また、地域の中で活動を始めたい（例：地域食堂、認知症カフェ、居場所づくり）といった相談に対して、関係機関を紹介したり、一緒にやっていくようなことをしたりしている。

個別に困りごとを抱える方からの相談もある。例えば、こどもナビゲーターから母子家庭の生活保護世帯についての相談があった。お母さんが急病で入院することになり、お母さんとお子さんの今後の生活をどうしたらよいかという話になり、生活保護のケースワーカー、児童相談所、学校、関連機関、お母さんの親族などと連携して、これからの生活についてつないでいった事例があり、今後の家庭の金銭管理のために、日常生活自立支援事業も活用した。

いわゆる8050問題（年老いた親と家の中でひきこもりや病気などにより社会に出られない状態になってしまったお子さん）の今後について、相談があった。親は既に亡くなり、親が残してくれた家と財産でなんとか細々と生活していた60代前半のお子さん。高齢者のサービス（介護保険サービスほか）を使える年齢ではなかったため、これからどうしていくのか、自宅訪問からスタートし、生活自立・仕事相談センターや警察、地域の方々と見守るといった個別の支援。

他の区では、地域食堂をやってみたいという方に対する支援や、高齢になり、ごみを出すことが難しい世帯について、地域の方で支え合う、地域支え合い活動の創出にかかる支援といった事例がある。

このように、相談を受けてすぐに解決ができるといったわけではないが、様々な関係機関と連携し、解決に向けて手伝いをしているのが、コミュニティソーシャルワーカーです。

地域の中や地域活動の中で困りごとや気付いたことがあったら、ぜひ連絡していただきたい。

（武井委員長）

何かご質問やご意見等ありましたら、ご発言をお願いします。

（各委員）

質問等なし。

（武井委員長）

ご質問等がなければ、議題（3）の説明は以上となります。

<その他について>

**【事務局】**

次回の第2回推進協の候補日について

中央区高齢障害支援課矢野主査から、次回の第2回推進協の候補日について、口頭で説明があり、現時点で都合の悪い委員が少ない令和7年3月18日（火曜日）午後2時から、本日と同じボランティア活動室で開催することに決定した。

<閉会>

事務局より議事要旨を千葉市ホームページに公開する旨説明し、午前11時12分、令和6年度第1回中央区支え合いのまち推進協議会を閉会した。

以上